

令和6年度 学校経営計画

1 学校教育目標

社会的・職業的自立を目指し、自他を尊重し協調しながら、自己実現と社会に貢献できる心身ともに健康な生徒を育成する。

<校訓> 自立 挑戦 協調

2 学校の特徴

- ・ 本校は、軽度知的障害のある生徒を教育の対象とし、卒業後の一般企業等への就労など、社会的・職業的自立に向けた支援を重視する、高等部のみを置く特別支援学校である。
- ・ 学校の規模は、1学年当たり、3学級24名を定員とし、就労に必要な知識・技能・態度等の基礎を習得するための実習を行う生産・サービス科を設置している。

3 学校の現状と課題

昨年度、9期生19名が卒業し、これまでに159名の卒業生を社会に送り出した。卒業生全員が希望する進路先へ就職し、多くの生徒が一般企業への就労を果たしている。今年度は17名が入学し、全校生徒は8学級52名となった。

今年度も引き続き「入学者定員を満たす取組の充実を図ること」「全員希望先への就職を目指すこと」「就労生活を継続する力を高めること」「自己理解を深め自己管理意識を高めること」を使命として取り組んでいく。授業だけでなく、校外における体験等を通して生徒の自己理解力を高めるとともに、生徒一人一人が社会で自分らしく、得意とする能力を生かして生き生きと活躍できるよう、生徒の主体的な学びを支える有効な手段となるICTを積極的に活用し、質の高い教育の実践に取り組んでいく必要がある。また、地域との交流や連携をさらに深めることにより、地域から信頼される学校を目指すとともに、就労支援のセンター的機能を高められるよう、就労支援体制の強化を図っていくことが課題である。

(1) 就労できる力を育てる

- ・ 職業教育に重点を置いた教育活動の推進と一人一人の特性に応じた就労支援の充実。
- ・ 実習（作業学習）や就業体験の系統的な実施及び地域人材や事業所等と連携した専門的な指導の充実。
- ・ 就労に向けた積極的な職場開拓及び職場適応・定着のための職業選択支援の充実。

(2) 生活の質を高める力を育てる

- ・ 就労生活の継続に向けて自律し、規則正しい基本的生活習慣を定着させるための支援の充実。
- ・ 青年期にふさわしい情操を培い、自己理解を深める支援を充実させるとともに、成人に向けての自覚と責任感を育み、良好な人間関係を保って主体的に心豊かな社会生活を送る力を養うための指導の充実。
- ・ 体力の向上及び自らの健康管理や健康的な生活を送ることができるための指導の充実。

(3) 地域社会に貢献する

- ・ 地域資源や人材の積極的活用、地域での実習（作業学習）やボランティア活動などを通しての理解啓発及び社会貢献。
- ・ 県東部の特別支援学校や高等学校における障害のある生徒の就労に関する支援の推進。

(4) 安全・安心な教育環境を整備する

- ・ 安全教育の計画的・組織的な実施と事故防止対策の拡充。
- ・ 危機管理や防災意識を高めるための校内体制づくり。

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 重点1 ①②③	目 標	・生徒が主体的・対話的に学習を進めることができるように、授業展開、ICTの効果的な利活用、支援方法等を工夫・改善し、より効果的な指導につなげる。
		計 画	・学校課題の研究を通して、 授業改善の取組 を進める。 ・ICT活用の特性・強みを生かした主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や生徒のより深い学びを促す方策について、外部講師による研修会を実施する。 ・モデル授業の互見を行い、教師のICT活用能力及び授業を展開する能力を高める。互見授業等について、公開授業期間として保護者の参観の機会を設けたり、学習の様子をHP等で知らせたりして、保護者等とも協力して効果的に取組を進める。
		目 標	・卒業後の就労及び成人としての社会生活を見据え、身に付けておくべき力を整理し、習得するための自己理解能力を高めるために、必要に応じた支援内容の精選と充実を図る。
		計 画	・就職及び就労継続に必要な力を整理し、作業学習及び学校生活での目標を選択するために「到達度チェック表」を活用して自己理解を深め、目標達成のための達成段階が視覚的に分かるようにする。
2	学校生活	目 標	・卒業後、成人としての自覚や責任感を持ち、健全な自立生活を送るための基盤となる社会常識を身に付けることができるように、社会生活のルールや情報モラルに関する学習の充実を図る。
		計 画	・生徒が社会生活上のルールやマナーを遵守し、情報モラルを意識した行動ができるよう、学年・学級での個別学習や協働学習を通して、社会規範やICTの適切な活用について学習場面を設定する。また、実施後に振り返り学習の機会を設ける。 ・学年や分掌、各教科等と連携し、必要に応じて外部講師等による講習会を実施する。
		目 標	・防災、防犯の訓練を通して、生徒が安全・安心して学校生活を送ることができるようにするとともに、危機管理マニュアルに基づき、学校の安全体制の充実を図る。
		計 画	・関係機関の専門的な視点からの指導を生かし、学校の安全体制を充実させ、教員間で共通理解を図るために、実際の学校生活における場面を想定した防災、防犯の訓練を実施する。 ・落ち着いて安全・迅速な緊急時対応ができるよう、緊急時の状況把握、安全な避難や対応方法を教職員間で共通理解し、HR等で生徒に意識付ける。
		目 標	・将来の自立した生活のために生活習慣を考える機会を設定し、自己管理しようとする意識と態度を育て、基本的な生活習慣の確立を図る。
		計 画	・生徒が生活習慣を振り返る期間を設定し、自ら改善点を考え、自立した生活を送ることができるよう継続して健康チェックを実施する。スマートフォンの使用時間等、家庭での生活リズムや生活習慣も項目に加え、家庭と連携して結果を生活改善に活かすことができるようにする。
		目 標	・一人一人のニーズに応じて、学校生活や家庭生活、社会生活に関する支援体制を整え、支援の充実を図る。
		計 画	・行動観察や面談等による生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてサポート会議等を開き、支援体制を整備する。 ・適時に質の高い支援が行えるよう、家庭との連携を密にし、地域、関係機関等との連携・協力の充実を図る。
3	進路支援	目 標	・生徒が主体的・意欲的に就業体験に取組み、適切な進路選択につながるよう、事前・事後学習の充実を図る。
		計 画	・事前・事後学習の時間を年間行事予定に位置付け、各教科等と横断的に指導を進めるようにする。 ・VR教材の活用や体験先での打合せ等を通して、生徒が具体的なイメージをもって就業体験に臨めるようにする。 ・体験後、成果や課題等について、生徒・保護者・全教職員で情報を共有し、学校生活全般や家庭生活で生かすことができるようにする。

		<p>目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者の就労に向けての理解を促進するために、情報提供の場の設定や情報の発信を行い、就労への意識啓発を図る。 <p>計 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路だよりや研修会等での意見交換を通して、障害者雇用率や最低賃金をはじめとする障害者雇用の現状や社会的・職業的自立に必要な内容を生徒・保護者に提供する。 ・就業体験報告会や卒業生の話を聴く「先輩に学ぶ」など、進路支援に関する行事への保護者の積極的な参加を促し、生徒と情報を共有できるようにする。 ・学校全体で生徒・保護者への就労意識を高める指導ができるよう、教職員対象の進路研修会を一層充実させ、進路指導への理解を深める。 <p>目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業向けの学校見学会を実施し、好事例となる取組等の研修を通して、企業への一般就労を目指す生徒の特性の理解を促進し、就業体験の受け入れや雇用促進を図る。 <p>計 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別支援学校就労応援団とやま」学校見学会を実施し、企業担当者への本校の作業学習や教科学習の公開、企業間の情報交換及び好事例の発表を通して、本校の取組の理解促進や就労支援体制の充実を図る。
4	<p>特別活動</p> <p>重点2 ⑤⑥⑬</p>	<p>目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身がよりよい学校づくりや地域交流について考え、実践することで集団や社会の一員としての意識を高め、主体的に社会参加、社会貢献する態度を育む。 <p>計 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトを継続し、さらに生徒主体で取組を推進できるよう環境づくりに努め、生徒会活動や学校行事、地域行事等において生徒が自主的に、または仲間と共同して実践しようとする態度が育つようにする。 ・地域行事への参加や地域の方々と触れ合う機会等を通して地域交流を深め、生徒が積極的に社会参加、貢献する態度を育む。 ・学校行事等の情報を発信するとともに、地域との交流の機会を設け、積極的に地域に開かれた学校としての推進を図る。
5	<p>その他 (情報)</p>	<p>目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力向上を目的としたICTの利活用及び情報モラルの向上を図り、生徒の正しく安全なICTの利用促進を図る。 <p>計 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT利用規定及びクラウドサービス利用規定に基づき、生徒の正しく安全なICTの利用の促進を図る。また、校内研修として情報モラル指導に関する研修等を実施する。 ・教員の実態やニーズを考慮し、小グループでの研修や時間的に制約の少ないオンライン研修等の情報提供や受講の勧奨をする。
	<p>その他 (教育相談)</p>	<p>目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が適切な進路選択を行えるよう、中学校等の生徒や保護者、教員に情報提供を行い、理解啓発及び教育相談の充実を図る。 <p>計 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県東部の中学校訪問やHP等を通して情報を発信することで、理解啓発を図る。 ・対象者のニーズに合うようにオープンスクール等の内容を工夫する。 ・学校見学会等で個に応じた相談ができるように個別相談のもち方を工夫し、適切な進路選択につなげることができるよう情報提供をする。 ・随時、相談や体験を受け入れることで、適切な学びの場の選択につながるようにする。 <p>目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県東部の高等学校における障害のある生徒の就労に関する相談・支援を行い、就労支援のセンター校としての機能を高める。 <p>計 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県東部の高等学校の教職員向けの学校見学会を実施し、高等学校に在籍する障害のある生徒の就労に向けた指導、支援に関する情報提供を行うとともに、高等学校の現状や困難を聞き取ることで状況を把握し、よりよい支援につなげるようにする。
	<p>その他 (PTA活動)</p> <p>重点3⑭</p>	<p>目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAと生徒が学校や家庭生活における様々な課題や困難について共に考える場をもち、互いに理解を深めることで、生徒・保護者・学校がチームとなり、よりよい学校・家庭生活を送れるようにする。 <p>計 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員と生徒との懇談会を開催し、学校での取組を知ったり、諸問題について意見交換を行ったりする機会をもち、生徒・保護者・学校のよりよい関係づくりを図る。 ・懇談会の内容について、HPやPTAだよりで全保護者に発信する。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 富山県立富山高等支援学校アクションプラン —1—			
重点項目	学習活動		
重点課題	主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 本校の生徒の特性として、学習の取組や習得に時間が掛かる、言葉による説明だけでは理解が難しい、抽象的な事象をイメージしにくいといった学習上の困難があり、授業では受け身になりがちである。 1人1台端末の配備でICT環境が整い、生徒が各学習活動でICTを活用して自ら考え、生徒同士で意欲的に学ぶ場面が多くみられるようになった。 昨年度行った、教職員間での互見授業後の意見交換では多くの授業改善のアイデアが出た。しかし、それを生かした授業改善後の研修は実施に至らなかったため、生徒の主体的で対話的な学びを促す視点での授業力向上につながっているか検証する必要がある。 		
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>① 互見授業による授業研究の実施 2回以上</td> <td>② 外部講師による研修会の実施 2回以上</td> </tr> </table>	① 互見授業による授業研究の実施 2回以上	② 外部講師による研修会の実施 2回以上
① 互見授業による授業研究の実施 2回以上	② 外部講師による研修会の実施 2回以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 互見授業及び授業研究、事後研究を年間2回以上実施する。 外部講師を活用した研修会を年間2回以上実施し、新たな気付きを得たり、授業改善につながるよりよい方策について学んだりする機会を設ける。 校内研修会での情報交換等を通して、発問や授業展開、教材、新たに導入したVR教材を含めたICTの効果的な利活用等を再考し、生徒の実態に即した、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を図る。 ICT教育推進委員会の機能の充実を図り、ICT教育の環境整備を進めるとともに、学年や分掌と協力して情報モラルの向上を図るなど、ICTを安全に使用できる環境づくりを進める。 		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和6年度 富山県立富山高等支援学校アクションプラン —2—					
重点項目	学校生活				
重点課題	生徒の自主的・実践的な態度の育成				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトを開始し、生徒会執行部を中心に取組を進めているが、主体的に取り組んでいる生徒はそれほど多くなく、教職員の働き掛けが必要である。 昨今、企業では社員が自らの気付きから業務を改善する取組が推進されている。卒業後一般企業等への就労を目指す生徒たちにとって、学校生活の中で気付きの視点を持ち、計画を立てて実践する経験を積むことは将来の社会生活にも活かされるものと考える。 昨年度は自分自身を高めるための実践が多かった一方、学校生活の向上や地域交流に目を向けた実践は少なかった。 「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトについて教職員全体に周知することができず、教職員の意識に差がある。 				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>① 「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトの実践</td> <td>② 生徒の自主的・実践的な態度の育成に関する教職員研修の実施</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全校生徒が3件以上、企画 全校生徒が3件以上、自分の提案または他者の提案に賛同して実践 </td> <td>2回以上</td> </tr> </table>	① 「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトの実践	② 生徒の自主的・実践的な態度の育成に関する教職員研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒が3件以上、企画 全校生徒が3件以上、自分の提案または他者の提案に賛同して実践 	2回以上
① 「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトの実践	② 生徒の自主的・実践的な態度の育成に関する教職員研修の実施				
<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒が3件以上、企画 全校生徒が3件以上、自分の提案または他者の提案に賛同して実践 	2回以上				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心に、「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトの取組を再考する。 学校行事（体育大会、文化祭等）や地域の行事で、生徒が地域の方々と一緒に取り組める企画や運営ができるよう、事前学習や準備の進め方等を工夫する。 社会自立への主体的な態度を養い、よりよく生きる力を高めるように、ウェルビーイングの視点で学校をよりよくするアイデアを出したり、社会参加・社会貢献をしたりする機会を設定する。 積極的に地域に開かれた学校としての推進を図り、生徒の実践の場を広げるとともに、広く地域の方々に学校行事等、地域との交流の機会等を含めた情報を発信する。 生徒の実践に対してより効果的な支援ができるように、生徒の自主的・実践的な態度の育成についての教職員研修を実施する。 				

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和6年度 富山県立富山高等支援学校アクションプラン —3—

重点項目	その他（PTA活動）
重点課題	生徒とつながるPTA活動の取組
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員・委員会を年3回実施しているが、教職員が主となってPTA事業の計画や準備等を行っているため、保護者同士の情報交換の場としてはまだまだ十分とは言えない。 ・県高等学校PTA連合会「イレブン・セブン運動」の改称等、生徒と保護者が意見交換しながら検討すべき課題がある。 ・思春期にある生徒とのコミュニケーションに悩む家庭もあり、学校生活についてもっと知りたいという要望が少なからずある。
達成目標	PTA役員と生徒との懇談会の実施
	2回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会と連携し、PTA役員と生徒との懇談会を実施する。 ・それぞれのニーズに合った内容になるように、懇談会前にアンケート等により保護者、生徒双方から話題にしたいことを聞き取る。 ・懇談会の内容について、HPやPTAだより等で発信し、全ての保護者、教職員と情報を共有する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)